

## 20. 資料センターの活動

### [到達目標]

法人組織である資料センターは、下記の所蔵資料を学内外に公開して、**青山学院建学の精神の高揚とその歴史への理解をはかり、またキリスト教教育史研究に寄与することを目的とする。**

1. 史資料（青山学院関係資料、メソジスト教会関係資料、内外キリスト教史関係資料）
2. 特別コレクション（明治期キリスト教関係資料、わが国の初期英語・英文学関係資料）

上記の目的を遂行するために、**次の事業を行うことを到達目標とする。**

1. 関係資料・コレクションを収集整理してその充実を図る。
2. 所蔵資料の目録を作成、整備する。
3. 学内外における関係歴史書、伝記類の編集計画に協力し、それらの編集者、執筆者に対し必要資料を提供する。
4. 学内外の研究者に対し、特別コレクションならびに歴史資料の公開閲覧に供する。
5. 歴史資料等を随時展示公開するほか、学内外で催される展覧会等への資料貸出しを行う。
6. 学院史に関する講演会、座談会などを企画・主催する。

### 1. 現在の活動内容

現在は、以下を中心に業務を担当している。

- (1) 関係資料・コレクションの収集整理
- (2) 所蔵資料の登録、目録作成（データベース）
- (3) 二次資料（逐次刊行物等の索引、写真資料のデータ取込等）の作成
- (4) 学内外における関係歴史書、伝記類の編集計画への協力と、それらの編集者、執筆者に対する必要資料の提供
- (5) 学内外の研究者に対する、特別コレクションならびに歴史資料の公開閲覧
- (6) 学内各部署発行誌の学院史に関する記事への資料提供及び原稿の校正チェック
- (7) 学生・研究者へのレファレンス・サービス
- (8) 本センターの事業計画、予算、その他運営に関する事項を協議する、資料センター運営委員会の開催（年2回）

### 2. 現在の活動内容と到達目標との比較

学院史及びキリスト教関係資料の保存公開することを業務とする本センターは、これまで学院が辿ってきた歩みを振り返り、自己認識を新たにすると同時に、学外に向けての広報活動及びキリスト教史研究への寄与等、一定の役割を果たしてきた。

現在は青山キャンパス再開発計画に伴い、本センターが設置されていた間島記念館が改修あるいは改築予定のため、相模原キャンパスと青山キャンパスの2ヶ所に臨時移転し、到達目標5の展示公開は休止している。

また、到達目標6「学院史に関する講演会、座談会などの企画・主催」については、2005年秋、一般・社会人を対象とした大学公開講座「都市の中の大学」で、“青山学院に集った人々—ビジュアルな歴史史料としての資料センター—”と題して話をする機会を得た。創立期の本学院の様子とともに、本センターが所蔵している、文化財としても貴重なガラス乾板（明治期宣教師が撮影した当時の東京、長崎等の写真）などを紹介した。所蔵資料や活動内容を示すことによって、**本センターが特別な研究目的**

を持つ人のためだけにあるのではなく、交通の便利な都市の中にあって、一般の人にとっても身近な施設であることを知ってもらう良い機会となった。青山学院に関心を寄せてもらう意味でも、講演会や座談会を積極的に企画・開催することは今後の目標の1つである。

### 3. 現在抱えている問題点とその具体的な改善方針・改善計画、今後の展望

#### 問題点(1)

今までに蓄積された未整理資料が山積している。また、現在の本センター業務内容からすると、学院史編集業務に中心にかかわるのは当然のようにも考えられるが、調査・研究の分野までではできない状態である。整理・登録をするには、その資料の由緒・由来から調べなければならないため、学院史を研究し、精通している兼任教員、資料館助手、専任職員等が、日常業務担当者以外に1～2名は必要である。また、院生アルバイト等を雇うことも双方にとって有効であると考えられる。

#### <改善方針・改善計画>

将来、博物館法に沿った「資料館」の設置を計画・検討していく必要がある。そのために、現職員に加えて学芸員資格をもち、資料等の調査研究及び「資料館」設置計画に参画できる資料館専任の助手または職員2～3名を準備の段階から配置することが望まれる。

#### <今後の展望>

青山キャンパス再開発計画のなかで、本センターを充実発展させた青山学院資料館（仮称）を新設し、学院共同利用教育研究施設とする。研究室、レクチャー室、実習室、閲覧室などを併設することにより、資料研究と教育（学芸員・司書資格取得を含む）のための施設とすることが望まれる。

#### 問題点(2)

各部署が保有する史資料の散逸を防ぐための、史資料の一元的管理がなされていない。

#### <改善方針・改善計画>

各部署が保有する史資料の散逸を防ぎ、史資料の一元的管理を図る必要がある。そのために、学院史料の保存に関する規則を作成することが必要となっており、現行「文書管理規則」の見直し改訂後に、その改訂規則との整合性を考慮したものを作成する予定である。ただし、学院史料の保存に関する規則を制定してそのとおりに資料収集しても、現人員で整理するのは非常に困難な状況が予想される。

#### <今後の展望>

一元管理をすることのできる十分な資料保存の施設（貴重書庫、考古品収蔵庫、美術品収蔵庫など）を整備し、また管理することのできる人材配置を行う必要がある。

#### 問題点(3)

資料の保存環境整備が不十分である。劣化を最小限に抑えて、資料をなるべく良い状態で後世に伝えていくためには、その材質等の特性に応じて、温度、湿度等が管理された収蔵庫に収納することが必要である。

#### <改善方針・改善計画>

当面は、相模原キャンパスに温度25℃前後、湿度50～60%を維持できる場所を確保したい。

#### <今後の展望>

青山キャンパス再開発計画のなかで、資料の材質等の特性に応じて、温度、湿度等が管理できる収蔵庫を整備した施設とするとともに、学院史資料(キリスト教関連資料を含む)展示室、考古品・

美術品・貴重図書の展示室、デジタルアーカイブ・コーナーなど、資料展示・閲覧のための施設として充実を図っていきたい。

その他、当初の目的を達成するために、以下を中心に引き続き業務遂行に務めたい。

- ① 青山学院史、キリスト教史、考古学等に関する資料の収集・整理・保管
- ② 学院本部及び各部関係公文書類についてのアーカイブ機能
- ③ 学院内外における教育史、キリスト教史等に関する研究活動への寄与
- ④ 『学院130年史』、『学院150年史』ほか、年史編纂基盤の整備
- ⑤ 自校史教育への寄与